第32号
令和４年３月

沖縄高専だより

National Institute of Technology,Okinawa College

目　次

1. 校長より …… 2
2. 学生の皆さんへ …… 3
3. リスク管理室からのメッセージ …… 4
4. 卒業生（本科５年生）へ贈る言葉 …… 5
5. 卒業にあたって …… 6
6. 卒業にあたって …… 7
7. インターンシップに参加して …… 8
8. インターンシップに参加して …… 9
9. 修了生へ贈る言葉 …… 10
10. 修了にあたって …… 11
11. 高専祭を終えて …… 12
12. ロボコンの結果報告 …… 13
13. 学生の活躍（スポーツ） …… 14
14. 学生の活躍（コンテスト） …… 15
15. 専攻科及び九州大学の連携教育プログラムの紹介 … 16
16. 専攻科の活躍 …… 17
17. 2021年度就職進学活動を終えて …… 18
18. 2021年度就職進学活動を終えて …… 19
19. 就職・進学・志願状況
令和４年度学生募集結果一覧 …… 20～21
20. 令和５年度沖縄高専20周年 …… 22

独立行政法人国立高等専門学校機構
沖縄工業高等専門学校
〒905-2192　沖縄県名護市字辺野古905番地
TEL：0980-55-4003　FAX：0980-55-4012
WEB▶http://www.okinawa-ct.ac.jp

沖縄工業高等専門学校
校長　伊原（いはら） 博隆（ひろたか）

「令和」は、「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」新しい時代の象徴として誕生しましたが、気がつけば令和はコロナ禍とともに２年が過ぎ、教育現場はもとより、私たちの生活様式が大きく変化し、そして世界中の様々な活動や機能がこれに大きく影響を受けてしまいました。

その一方で、沖縄高専は飛躍の２年となったように思います。２年ぶりの入学式の挙行となった本年は、会場を従来の本校体育館から初めて名護市民会館に移すことにより実現させることができました。また、年度始めから対面・集合形式での授業を主体に学びをスタートすることもできました。このように良いスタートが切れたのは、教職員はもとより、学生の皆さんが感染拡大防止に対して高い意識をもって行動していただいたことや、さらには保護者の皆様、後援会、沖縄高専産学連携協力会、そして本校を応援していただいている全ての皆様のご理解とご協力があってこその結果と思っています。この場をお借りして感謝申し上げます。

本校の活動は、様々な局面で新たな展開を見せています。教育面では、オンライン授業のスキルが着実に進化し、コロナ禍であってもその状況に即応できる体制が整いつつあります。本校の特徴でもある低学年からの情報基礎教育については、サイバーセキュリティ人材育成プログラムを新たに開始し、今後は数理・データサイエンス・AI教育を始動させることにより、時代に即した人材育成に取り組む予定です。また、４年次から履修できる人気の航空技術者プログラムについては、この２年間の準備期間を経てカリキュラムを見直し、１年次から基礎教育を導入し、さらには３学科から全４学科に対象を拡大して実施することになりました。

学生交流のグローバル化も推進しています。留学生センターを設立し、ポストコロナを視野に入れて、海外派遣および受入れの準備を進めています。またこの４月より、タイ政府派遣留学生を１年次から受け入れるため、本校内に２名の専任教員と併任教員からなる日本語・日本文化教育センターを新設しました。３年次編入学についても積極的に受け入れていますので、新年度は11名の留学生が本校で学びを共にすることになります。

研究面では、教員の研究力の指標となる公的な競争的資金の獲得率をこの２年間で全国トップレベルに押し上げることができました。また組織的な研究力および社会実装力を強化するため、国立高専機構が推し進めるGEAR5.0プロジェクト（防災・減災・防疫分野）に積極的に応募し、採択に至りました。本校は全国４高専を牽引する拠点校として、ライフサイエンス分野で活躍できる新たな実践的人材育成教育を推し進めていきます。

本校は２年後に節目となる創立20周年を迎えます。今、私たちは、未曾有のコロナ禍で「変化」し、「進化」し、そして「適応」する力が問われています。コロナ禍だからこそ思いつく発想や解決すべき潜在的な課題も見えてきます。本校はこの機会をチャンスと捉え、新しい時代に適応し、地域や国際社会に求められる高専を目指します。今後とも、皆様のご理解、ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。

学生の皆さんへ

副校長（学生・キャリア支援担当）
比嘉（ひが） 吉一（よしかず）

日頃より本校の学生指導・課外活動へのご理解・ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。学生の厚生補導に関する諸問題に直面・対応する立場から、喫緊の課題と考えております２件のトピックスについて、家庭・学校での協働による厚生補導を行う目的から、情報共有をさせていただきます。

１点目は、平成30年６月16日に成立しました「民法の一部を改正する法律（成年年齢関係）」を受け、「成年年齢が18歳」となる点です。来たる令和４年４月１日から、18歳、19歳のみなさんは同日より「新成人」に、平成16年４月２日以降生まれの方は18歳の誕生日をもって「新成人」となります。「成人」として、自らの判断によって人生を選択することができる環境整備をするとともに、その積極的な社会参加を促すことで、日本社会を活力あるものとする点で大変意義深いものであると考えます。一人の成人として社会的に責任ある行動を求められる中、一方で、親の同意を得なくても、自分の意思で様々な契約ができるようになることから、契約に関する消費者トラブルについて今まで以上に注意する必要があります。社会経験に乏しい、保護がなくなったばかりの成人（みなさん）を狙い打ちする悪質な大人が存在することを理解し、自分事として契約に関する様々なルールや想定されるトラブルについて、積極的に学ぶことをお願いします。なお、飲酒・喫煙および公営ギャンブル等については、これまで通り20歳にならないとできないことですので、安易に手を出すことの無いようにお願いします。

２点目は、スマートフォン、タブレット等の「情報通信端末」の利用方法についてです。「ながら・・・」に関する注意喚起は、高専だより第25号（平成30年９月発行）で、「ネット依存」「スマホ依存」「ゲーム依存」に関連した問題については、第28号（令和２年３月発行）で行っているところですが、ひきつづき、ご家庭での学生本人－保護者との間で情報通信端末の利用方法について、明確なルール策定をお願いするために再掲します。平成30年７月20日に一部改正が行われた「沖縄県青少年保護育成条例」では、インターネット利用に関する保護者の責務を明文化し、「保護者は、インターネットの利用に伴う危険性、過度の利用による弊害等を認識し、その保護する青少年に対し、インターネットを適切に活用するために必要な教育を行うとともに、当該青少年のインターネットの利用を適切に管理するように努めなければならない」としています（下線は筆者による）。また、使用者が18歳未満の場合は、「インターネット上の危険性やトラブルから守るため、フィルタリング（有害情報の閲覧制限、利用時間の制限、SNS等アプリケーションの利用制限）を設定する」ことを求めております。平成29年度より長期休業期間中で実施の「保護者アンケート」において、「お子さまのスマートフォンやパソコン等の使用について、ご家庭でルールを取り決めていますか？」への回答は、計６回の平均値ですが、有効回答数の約50％弱の家庭においてルール策定が進んでいることを把握しております。これは、50%を超える家庭において、学生－保護者間での明確なルール策定が進んでいないことを示しております。学生が利用している情報通信端末を「一方的に取り上げる」「制限する」は学生－保護者間でのトラブルの原因となることを踏まえつつ、まずは、お子さまの情報通信端末の利用状況（情報量、アクセス時間など）について情報収集をしていただきたいと思います。そして、契約者である保護者の責務として、学生本人－保護者との間で情報通信端末の利用方法について、例えば、「就寝時間／授業時間（学則第16条）はスマートフォンの電源をOFFに」など、明確なルール策定をお願いいたします。

リスク管理室からのメッセージ

副校長（総務担当）

リスク管理室　眞喜志（まきし） 隆（たかし）

令和３年度の副校長（総務担当）の眞喜志隆です。本校には、学校全体のリスクに対応するためのリスク管理室が設置されております。今から２年前の2020年初頭から全世界的に流行まん延した新型コロナウイルスに対しての対応も、国や県の対応指針を参考にリスク管理室を中心に、新たにコロナ対策本部を設定して対応してまいりました。残念ながら2020年度の入学式は実施できず、また、かなりの期間で遠隔講義となり、それまで行われていた学校行事も縮小や中止となってしまい、学生諸君や保護者の皆様にご不便をおかけしてしまいました。その後も、変異株のデルタ株や、現在流行しているオミクロン株によって県内感染者急増のため、遠隔講義で対応している状況です。

本校での感染対策は「三密の回避」が基本で、教室や実験室を使うことができる人数の制限、手洗いとアルコールによる拭取り、登校前の検温確認、入館時の体温確認、レストランのパーティション設置、利用者数制限、黙食の励行、寮での入浴等の人数制限を行っております。本稿執筆時点での本校学生の感染は通算34例ですが、幸いなことに校内での感染事例はありません。これは、学生諸君の意識の高さの現れと本校の感染対策が間違っていなかったものと感じております。

2022年度も厳しい状況が続くかと思いますが、学修の機会を確保し対面での講義・実験・実習での教育効果を維持しつつ、学生諸君だけではなく教職員も含めた、本校全体の安全な教育環境の維持に努めてまいります。学生諸君および保護者の皆様には、今後とも様々な場面でご協力をお願いすることになりますが、よろしくお願いいたします。

卒業生（本科５年生）へ贈る言葉

５学年学科担任

機械システム工学科

森澤（もりざわ） 征一郎（せいいちろう）

機械システム工学科５年の皆さん、ご卒業おめでとうございます。私事ですが、３年前に沖縄高専に着任し、皆さんとは３年と４年では副担任、５年では担任として、他の学年や学科の学生たちより多く接する機会を持ち、沢山の貴重な経験をすることができました。そして、機械系特有（？）のパワーを感じた３年間でした。

皆さんは高専生活での生活を振り返ってみて、どうだったでしょうか？また、専門科目などに大なり小なり苦しめられたのではないでしょうか？どの学校でも、機械工学は学ぶ範囲が広く、やるべきことも多くなります。そのため、課題の締切や定期試験の準備に追われ、辛いこともあったかもしれません。ただ、それらを乗り越え卒業までこぎ着けた皆さんは、気づいていないかもですが、高専生活を通じてそれを乗り越えるための基礎力と経験を身につけています。今後、何か壁にぶつかったときは高専生活を糧に、一歩ずつ乗り越え、さらに成長してくれることを期待しています。もちろん、ここまでくるためには決して一人の力ではないと思います。これまでに友人、学内の先生や事務員、そして保護者など多くの方々に支えられてきたのも事実です。そんな方々への感謝の気持ちも忘れないでください。

４月からは沖縄高専・本科生という立場から、何らかの新しい変化が訪れます。ぜひ、その変化を楽しむとともに、今まで築いてきた人との縁（繋がり）を大事にしてください。この人との縁には先輩・後輩のような縦の縁、同級生のような横の縁、そして他学科など部局の異なる先輩・後輩のような斜めの縁といろいろあります。皆さんが何か壁にぶつかり、自力では解決できないとき、これらの縁がきっと助けてくれると思います。そして自分たちができる範囲で良いので、そんな困っている人を助けることができる存在になってください。

最後に、今後皆さんの活躍をどこかで耳にするのを個人的に楽しみにしてます。頑張ってください。

情報通信システム工学科

亀濱（かめはま） 博紀（ひろき）

情報通信システム工学科の５年生のみなさん、長いようであっという間だった５年間、本当にお疲れ様でした。そして、ご卒業おめでとうございます。思い起こせば、ちょうど13年前、私も沖縄高専を卒業しました。そして、５年前にみなさんと一緒に沖縄高専にやってきました。入学式で、不安と緊張、期待が入り混じったみなさんの顔を見て、しっかりと育てて社会に送り出すんだと意気込んだ日のことを昨日のように思います。

この５年間を通して、外見でなく内面も大きく成長しましたね。体育祭やバーベキュー、研修旅行、いろいろと楽しかったですね。辛いことを頑張って乗り越えましたね。皆さんと過ごした５年間はとても刺激的で、教員として未熟な私は、みなさんの言動に一喜一憂していました。また、みなさんがいろいろな悩みを相談してくれ、経験させてくれたからこそ、一緒に成長できたと思っています。本当にありがとう。

みなさんの卒業にあたり、みなさんを無事に社会に送り出せたという安堵感と今後への期待感、そして少しの寂しさで心がいっぱいです。

情報５年生のみなさんは、私の心に強く残る学生達でした。また、今後も応援し続ける卒業生です。ぜひ胸を張ってこの広い世界で躍動してください。また皆さんが元気な姿で沖縄高専に遊びに来てくれることを期待しつつ、私自身も胸を張って教員と言えるように頑張ります。

最後に、私の好きな言葉をみなさんに贈ります。「No pain No gain」。みなさんの素晴らしい未来に幸あれ！

メディア情報工学科

鈴木（すずき） 大作（たいさく）

メディア情報工学科５年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。５年前の春、希望に満ち溢れて始まった高専本科生の生活もついに終わりを告げ、春より新しいそれぞれの生活が始まろうとしています。楽しかった友人との生活や部活動、苦労した勉強や研究、様々な思い出を胸に、皆さんはどのような気持ちで卒業の門出を迎えられましたでしょうか。

新型コロナウイルスが流行し始めてからのこの２年間は、皆さんの学生生活にも大きな影響が生じました。授業は遠隔授業での実施となり、また、体育祭や高専祭などの学校行事の中止、そして就職活動においてもオンライン主体での会社説明会や面接の実施など、様々な不都合や苦労があったことと思います。それでも、皆さん一人一人が諦めずに、時には妥協しながらでも一つ一つのことを乗り越えたからこそ、この希望に満ちた節目の春を迎えることができたのではないかと思います。人それぞれ歩む道は異なれど、人生という旅においては、歩んだ本人にしか味わえない喜びと楽しみ、そして何よりも苦難に立ち向かったからこそ得られる自分自身の成長と将来への希望があることを、皆さん自身が振り返って感じることができるのではないでしょうか。

旅はまだまだ始まったばかり、新しく出会う旅の友と意気投合し、時には再開する親友との懐かしい思い出に浸りながら、これからも人生という長い長い旅を謳歌してほしいと思います。

最後に、５年間という短い旅でしたが、皆さんと出会え過ごせたことをうれしく思うと共に、何よりも私自身を成長させ希望を与えてくれた皆さんに深く感謝いたします。また旅のどこかで再開できる日を楽しみにしております。

生物資源工学科

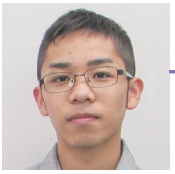
磯村（いそむら） 尚子（なおこ）

生物資源工学科５年生の皆さん、こんにちは。この高専だよりが出版される頃は、全員が無事卒業をしているでしょうか。コロナ禍のために、あなたたちは４年生の一大イベントであるインターンシップは対面で行うことができませんでした。また、５年生になってからもたびたび登校が制限され、進学・就職活動が思うようにできなかったかもしれません。しかしながら、担任を始め教員が心配するよりもあなた方はタフであり、工夫をこらして乗り越えてきました。見方を変えれば、あなたたちは自分たちが招いたのではない、ある意味理不尽な困難に立ち向かう姿勢や考え方を身につけたとも言えます。

卒業後は、各自がそれぞれの場所で生きていくことになります。某CMではないですが「大人って長い」ですから、時には無我夢中で集中し、時には何もしない時間を持つというように、緩急をつけて過ごしてほしいと思います。また、何よりも身体が資本です。体が不調だと人にも自分にも優しくできません。古今東西「健康に大切なのはバランスの取れた食事、適度な運動、十分な睡眠」と言われているのは、それらが本当に大切であることに加えて、なかなかできないことだからと言うことを覚えておいてください。みなさんのこれからに幸多いことを心から祈っています。

卒業にあたって

各学科５年生



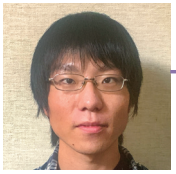
機械システム工学科

兼久 勇斗（かねく はやと）

長いようで短かった５年間でした。私は入学当初、親元を離れ知らない人達との共同生活に戸惑いもあり、勉強面でも勉強についていくことが出来るのか、留年してしまうのではないかという不安な気持ちでいっぱいでした。

しかし、私は寮生活で多くの友達ができ、最初の不安がウソの様に楽しく寮生活ならではの色々な思い出ができました。寮生活ではコミュニケーション力や協調性を身につけることができたと思います。そして、勉強面では友達と切磋琢磨しながら勉強して、機械システム工学科の実習などを通して知識を深めることができ、自分の興味がある航空分野でも空港見学やフルフライトシミュレーターなどといったこの学校にいたからこそ出来た経験も多くあり、それにより自分の視野を広げ大きく成長できたと思います。また、学校の先生や多くの企業の人達などといった色々な分野に精通している人達とのふれあいが自分の価値観や考え方を変えていくきっかけとなり、自分の目標にも大きく影響しました。

今思えば一瞬ながらも大変で楽しくもあり、将来につながる経験が多くできた５年間でした。最後に、これまで色々なことを教えてくれた先生方や一緒に学び切磋琢磨してきた友人、そして何よりこれまで支えてくれた家族に心から感謝しています。



機械システム工学科

新崎 広人（あらさき ひろと）

あっという間の５年間でした。今思い返すと、中学３年生の頃の私は当時流れていた日産自動車の自動運転のCMを見て「高専で物を動かす技術が学べるのかな」と期待に胸を膨らませていたように感じます。しかし実際に入学すると、最初は材料の加工法や製図など、物を製作する上で重要な内容が学べて勉強になった反面、本当に学びたかったものとの差を感じ、機械システム工学科という選択は間違っていたのかもしれないと思っておりました。ですが４年生に入ると、制御工学の授業など、求めていた「物を動かす」技術に触れるようになり、学校での授業がより一層楽しくなりました。そこからはアルバイトでのサービスロボット開発や５年生の卒業研究などで、自分から積極的に制御関連の技術を学ぶようになりました。高専で５年間を過ごした今なら、機械システム工学科を選んでよかったなと本当に思います。高専生活を支えて下さった全ての方に心から感謝申し上げます。５年間本当にありがとうございました。

私は高専卒業後、千葉大学工学部に３年次編入します。もしかしたら、高専入学当初のように想像していたものとは大きく異なった学生生活が待っているかもしれません。ですが、今度はただ時を待つのではなく、学内外を問わず自分から積極的に活動し、学びたいこと、やってみたいことを沢山経験していこうと思います。

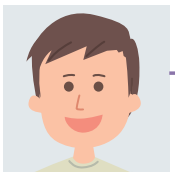
情報通信システム工学科

安山 千鶴（やすやま ちづる）

高専で過ごした５年間は刺激に溢れる毎日でした。高専入学前は消極的、引っ込み思案という言葉が似合う地味な中学生でした。それが高専では学生会でイベントを企画して開催したり、高専祭実行委員をさせてもらったり、さまざまなイベントに関わらせて頂きました。正直はじめは、「人に誘われたから」とか「やる人がいないなら…」という気持ちで取り組み始めました。しかし、やっているうちにやりがいを感じ、自分のやりたかったことやなりたい自分を見つけることができ、何事にも積極的に取り組むようになりました。そこでの経験は私の性格を明るく変えてくれただけではなく、人との関わり方や接し方など人生において大切なことを学ぶことができました。高専という環境がなければ以前の私のままであったと思うと、入学して本当によかったです。

また、辛かった日々の課題や就職活動、卒業研究は互いに支えあってきた14期情報の仲間がいないと成し遂げられなかったと思います。私はみんなのおかげでここまでこられました。感謝してもしきれないです。

最後になりますが、たくさんご指導頂きました先生方、支えてくれた友人、高専で出会った先輩、後輩、そして大好きな家族に感謝申し上げます。



情報通信システム工学科

上地 格（うえち いたる）

５年間、くそお世話になりました！！！このご恩は、一生忘れません！！！【1】

まぁ専攻科進むのであと２年はいるんですけど、多分２年後も同じこと言ってます。あっという間の５年間だったので２年間のロスタイムもすぐに終わってしまうと思うのですが、ひとまずは一区切りという形なのでこの場でお礼をさせていただきました。

僕は正直高専に来た理由もほぼ覚えてないのですが、まぁあれです。若気の至り的なところもあったと思います。ぶっちゃけ初めてプログラミングの授業受けたとき来るとこ間違えたかなって本気で思いました。同中から来た親友（公認）が勉強出来たのホンマ助かりました。勉強どうにかなったと思ったら、レポートだったり、友達がメンヘラだったり、コロナだったり、応援してる野球チームがいつも負けてたりとか情緒がスーパーボールみたいな５年間でしたね。

なんだか負の側面ばっかり言ってる気がしますがとても楽しく充実した沖縄高専の５年間でした！そう思ってなきゃ専攻科受験しません！個人的に相川先生にはとてもお世話になりましたし、感謝しています。先生の研究室で卒研や進路活動ができて本当に良かったです。ありがとうございました。あと、神里先生は友達です。（多分公認）

最後にならないんですけど、この５年間本当にありがとうございました。先生方、あと２年間よろしくお願いします。

参考文献
【1】尾田栄一郎,“ワンピース８巻”,集英社,1999.

メディア情報工学科

金城 宏季（きんじょう ひろき）

私達13期生は３月沖縄高専を卒業します。入学時に長い学校生活が始まるのかと楽しみでありながら、多くの不安を抱えて始まった５年間でした。その不安はどこへ行ったのか、とても楽しい日々でした。ここでは後輩に向けてメッセージを残したいと思います。

まず、新入生の皆さん、入学おめでとうございます。親元離れた寮生活、友達関係や勉強等、不安なものはあるかもしれません。実際自分も「あっ、ここの人達合わねぇ」なんて思ったこともありました。高専生は皆、少し癖があります。でもだからこそ面白い人達でした。初めてのこと、新しいことにはそれだけ喜びがあります。全力で突っ込んで楽しんでください。

次に在校生の皆さん、自分の「好き」を大事にしてください。気になることがあれば、すぐ先生や先輩に相談や質問をしてください。そうやって自分のなりたいものを見つけて突っ走ってください。この学校はそれを全力でサポートしてくれます。

そして、高専で過ごす仲間は、５年間を共に過ごすかけがえのない人達です。中学の人と違って、卒業後も一生関わっていくことが多いと思います。だからこそ仲間を、この日々を大切にしてください。ふざけるときは全力でふざけましょう！

最後に、支えて頂いた先生方、そして高専で関わった全ての人に感謝を申し上げます。ありがとうございました！

メディア情報工学科

新城 千尋（あらしろ ちひろ）

卒業する５年生の多くが感じていることだと思いますが、入学式の日から気が付くとあっという間に５年間がたっていました。１年生のころを振り返ると、情報技術の基礎という授業で自分の学科の専門分野において興味のあることを発表した時のことを思い出します。出会ったばかりのクラスメートとあんなことやこんなことを学びたい、できるようになりたいとたくさんの夢や目標を話し合いました。５年たった今、そのころの目標のほとんどは達成できなかったように思います。しかし、この高専生活の間でその目標をかなえるために必要な力を身につけられたように思います。専門分野における基礎的な技術や、私がこれから進むIT業界のことなどを授業や先生方との会話からたくさん学ぶことができました。また、専門分野以外にも自立して生活することの難しさや周囲の人と協力して日常生活を送ることの大切さなども学びました。３月で沖縄高専は卒業しますが、高専で身につけてきたことを自分の人生の基礎とし、技術者としても社会人としてもより成長できるように努力し続けていきたいです。そして、１年生のころ持っていたたくさんの目標をいつか叶えたいです。

生物資源工学科

當間 彩香（とうま あやか）

新入生の皆様、高専に入ってやりたいことはありますか。在校生の皆様、やりたいことはできていますか。卒業生の皆様、やりたいことはできましたか。予想ですが、卒業生の大半は少しやり直したいことや悔いがあると思います。斯く言う私も資格取得にもう少し力を出せば良かったと後悔しております。しかし、小さい頃からの夢だった海外への長期留学だけは成功させたいと思い、２年生の頃学業不振気味になりつつも県費留学に向け一生懸命頑張りました。とある先輩に「お前に留学は絶対無理」と高専祭の最終日に言われたことを今でも覚えています。今でも理由は定かではないのですが、絶対叶えたい夢だったので色々な先生や先輩に助けてもらいながら県費留学に合格することができました。ちなみに余談なのですが、留学を考えている皆様、留学は行ってからが勝負です。相手に何ができるか、give & takeのtakeだけになってないかを考えるとより円滑に留学を楽しむことができます。最後に、私は高専を卒業するまで度々“環境に恵まれてるな”、“人に恵まれてるな”と思っていたのですが、そう思えたのはもちろん何度も手を差し伸べてくださった、先生、先輩、友人、家族のおかげです。心より感謝を申し上げます、ありがとうございました。新天地でも頑張ります。

生物資源工学科

五十嵐 薫（いがらし かおる）

生物資源工学科には生き物や自然が好きという理由だけで入学しました。１年の頃は、講義やレポート課題で大変でしたが、私は考えることが元々好きだったので、友人と集まってレポート課題の考察部分を話し合うことが一番楽しかったです。２年になると実験が好きになっており、創造研究を履修しました。友人とテーマを考え、実験を計画し、実験を行っていました。夏休みと春休みも登校して実験をするくらい熱中していました。後半は思い通りにいかないことが続きましたが、それも含めてとても充実していました。八重山諸島へ昆虫採集と星空観察に行ったことで昆虫への熱が高まり、３年では講義の空いている時間に友人と虫取りをしていました。４年では遠隔になり、時間が自由に使えるようになったので、少し遠くまで虫取りに行くことが増えました。５年の卒業研究でもひたすらに虫を取りました。こんな感じで、「好きなこと・やりたいこと」ができ、なりたい自分が決まった５年間だったと思います。入学の理由は曖昧でしたが、今は生物資源工学科に入学して本当に良かったと思います。進学先では、虫取りはほどほどにして、なりたい自分になるために必要なスキルを身につけることに一生懸命になります。最後に「好きなこと・やりたいこと」を自由にやらせてくださった教職員の方々や友人、そして家族に心より感謝を申し上げます。

インターンシップに参加して　各学科4年生

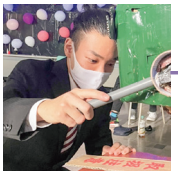
機械システム工学科

メグゼル イテゲル

私は、８月23日～27日の５日間LIXIL株式会社のインターンシップに参加しました。LIXILは、住まいの水まわり製品と建材製品を開発、提供するグローバル企業です。残念ながら、新型コロナウイルスの影響で、対面で参加できず、オンライン形式でやりましたが、様々なことを学べた５日間でした。

インターンシップのテーマは生産技術で、ものづくり、品質、リスクアセスメント、機構、生出在等のテーマで講義を行い、グループワークをやりました。短時間のグループワークが多くて、アイディアが思い浮かばず苦労することが多かったです。ですが、グループメンバーの助け合いのおかげで無事発表できました。実際の場面で発生した問題をチームワークで解決できたことをうれしく思います。

インターンシップは、業界や職種について学ぶだけではなく、自分に何が足りないかを見つけること、自分が何をやりたいかを知ることが非常に重要だと思います。例えば私は、今回のインターンシップに参加したうえで、私は生産やメインテナンスにあまり興味がなくて、開発に興味を持っていることを改めて知りました。また、実際に職場にいる人から色々な話を聞き、アドバイスをもらう良い機会だったと思います。



機械システム工学科

すながわ　ゆう　と
砂川 優斗

私は、OIST（沖縄科学技術大学院大学）様にてオンラインによる５日間のインターンシップにお世話になりました。当初は対面にて実習を行う予定でしたが、緊急事態宣言発令に伴い急遽オンラインでの日程で実施しました。

OIST様は国内外問わず研究者を集め、質の高い研究を行っております。また、その研究成果は世界に発信され、数々の研究論文が科学誌にも掲載されているほどです。さらに「世界中の人類に恩恵をもたらす」が理念であり、そのため学内での共通語は英語となっており驚きでした。

実習では、スケジュールからセッションまで英語を多く活用します。英語の論文を同級生とディスカッションすることや外国人の教職員・学生とセッションすることもあり、とても刺激的な体験をさせていただきました。もちろん専門用語も多く、全ての英語が理解できるわけではなかったので緊張し、大変な日々だと感じました。しかし「そのわからない」を放置するのではなく、恥ずかしがらずに発言することが研究者には大切だと学びました。それから私は、「わからない」を好奇心に変え、周りを気にせず挑戦することにしています。

技術的な面では、やや生物資源工学科で扱うような生物や心理学等の研究を学びます。「FIJI」を使った画像解析やイメージングセクションについての多くのセッションがあり、多種に渡る顕微鏡の種類や観察物の染色の仕方など知らないことを教えていただきました。機械科である僕にとっては、生物に関しての知識があるわけではないので苦戦することもあり、私は各セッションにおいて質問やコメントをアウトプットしてみることにしました。結果、積極的に参加することで自分の成長へ繋げることができ、日常生活や進路活動に活かすことができています。

これからインターンシップを体験する後輩の皆さんは、コロナ禍でも自分が成長できる配属を自ら決定することで進路選択に励んでほしいと思います！！

情報通信システム工学科

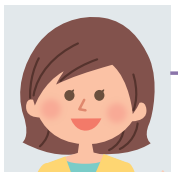
うらさき　なおみつ
浦崎 直充

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、インターンシップの予定が延期になったり、オンラインでの開催に変更になったりと、エントリーがしづらかった印象です。私もインターン先が決まるのが結構ギリギリでした。コロナの影響は、今年も続くと思うので、何社も受けておいた方が後々安心できると思います。情報の先生は企業に関する情報を結構持っているので、相談があればメールなどで聞いてみるのもいいと思います。

私は他の県の高専生たちとオンラインで一緒に受けたのですが、資格を取っていた人がいたり、自分でAIの勉強をしている人がいたりして、レベルが高いなと感じました。

ですが、企業の人に印象付けてもらうために私もアピールをしなきゃと思って、積極的に質問を行いました。質問はあまり浮かんでこないと思いますが、説明をきいて、わからないことや気になったところがあったらメモして、聞くことを意識して行いました。

インターンシップは緊張して受けてはいましたが、結構楽しめていたと思っています。このことがあって私も就活に力をいれなきゃと意識するようになりました。ぜひとも参考にしていただけると幸いです。ありがとうございました。



情報通信システム工学科

うらさき　みゆう
浦崎 美柚

私は、インフラ関係の企業のインターンシップに参加しました。理由としては、普段、私たちの生活を支えているインフラ関係の仕事に興味があり、仕事内容や一日の仕事の流れなどを知りたいと思ったからです。

インターンシップでは新型コロナの影響もあり、オンラインで行う場面もありました。慣れていないオンラインインターンシップに戸惑う場面もありましたが、企業の方から直接お話を聞けて、とても充実した時間を過ごすことができました。また、グループワークを通して、お互いの意見を共有することで、自分とは違った考え方や見方を知ることができ、視野を広げることができました。

これから、インターンシップに参加する皆さんへのアドバイスとして、自分が興味をもった企業や少しでも気になった企業があれば積極的にインターンシップに参加してみるということです。そうすれば、本当に自分がこの企業に行きたいのか、自分に合っているのか知ることができます。また、オンライン開催のインターンシップに参加する場合は、事前に配信ツールを一度使ってみて機能などを確認しておくと当日、戸惑うことが少なくなるかと思います。

自分が将来、どんな仕事をしたいのか考えながら、インターンシップに参加してみてください。

メディア情報工学科

上原（うえはら） すみ加（か）

私は今年度の夏休みにアスクル株式会社さんと株式会社PUREWORKSさんのインターンシップにそれぞれ５日間参加させて頂きました。

アスクル株式会社さんでは他の参加者の方と一緒にチームを組み、“社内をDX化する”という課題に沿ったシステムの開発を企画から行いました。初めて会った人達と５日間でシステムを作るというのは難しいことも多くありましたが、コミュニケーションの取り方という点で多くの学びがありました。また、高専で学んだ知識は活かすことが出来るという実感を得られるとてもいい経験になりました。

株式会社PUREWORKSさんでは、社員の方々と一緒に社内の業務効率化に関するシステムを企画から開発まで行い、最終日に社長や社員の方に向けて発表を行いました。このインターンを通して効率化を行う上で全て技術で解決出来れば良いのでは無く使う人たちが今までのシステムと遜色なく使える必要があるという考え方を身につけることが出来ました。

これからインターンに参加する学生にはぜひ自分から積極的に動いて欲しいと思います。自分から積極的に動くことで、自分がやりたいことに近いインターンに参加することができ、より良い経験にできると思います。

メディア情報工学科

備瀬（びせ） 己智（きさと）

私は夏休みの３日間、ローランド株式会社のインターンシップに参加させていただきました。同社は主に電子楽器の開発・製造を行なっている会社です。

私は高専２年生の時に電子楽器を作ったのがきっかけで電子楽器メーカーに興味を持ち始め、ローランドに入社することを目標としてきました。長らく目指していたこともあり、インターンシップに参加できると決まった時は本当に嬉しかったです。

今回のインターンシップはzoomを使ってオンラインで行われましたが、学生の参加人数に対する社員の方の人数が多く、質問しやすい環境でした。また、日程外で親睦会を行うなどしてチームメンバーとも交流を深めることができました。

インターンシップでは、６人チームで新しい楽器の企画をするというチーム課題が与えられ、私のチームでは使用環境に応じて分割・拡張ができるキーボードを企画しました。私は３D CADを使用して企画した製品のイメージ画像を作成しました。エンジニアの方の話を聞きながら実際にどのように楽器が企画されているのかを知ることができました。

これからインターンシップに参加する学生には、ぜひ自分の行きたい会社のインターンシップ（できれば夏季）に参加して欲しいです。４年前期には行きたい業界を決めておくと余裕を持って動けると思います。

生物資源工学科

小浜（こはま） 宏翔（ひろと）

インターンを通しての主な恩恵は、他高専の人と意見交換できたことです。「将来どんな仕事をしたいか」という題材で議論をしました。自分は生物資源工学科の知識を生かすために研究系の仕事につきたいと考えていました。しかし他高専の化学系の人は視野を狭めずに広い視野で見てそこから決めても遅くはないと言っていました。自分の意見である「知識を生かすために仕事したい」よりも上位互換な考え方だなと感じ、視野を広げて今以上を見つけることに専念しようと思えました。あまり人と意見交換をせずに自問自答を繰り返して自分の意見を確立するので、他人の考えを柔軟に受け入れて自分に適応させる能力が必要だと分かりました。そしてこのような違う価値観との意見交換はインターンに限らず行えることであるため、人との意思疎通をこれまで以上に図ろうと思えました。私から後輩へのインターンに関するアドバイスは、「当たって砕けろ」精神で臨むことです。私たちは社会において初心者のようなものなので、この立ち位置をうまく利用します。初心者の内に、あまり評価されにくい項目と必要以上に評価される項目を見分けて、力を入れるべきところを見極めるべきです。

生物資源工学科

新里（しんざと） 守礼（しゅれい）

私は、インターンシップでOIST（沖縄科学技術大学院大学）へ行くことにしました。コロナウイルスの影響で対面中止になってしまいましたが、５日間のオンラインインターンシップでは、ショウジョウバエ遺伝学施設での研究方法や施設・器具の紹介をビデオ越しに受けた後、ALS（筋萎縮性側索硬化症）についてのセッションを主に行いました。事前に読んでおくように、と渡された資料がすべて英文だったので読むのに時間がかかったのを覚えています。実習では、変異したショウジョウバエの特徴探しをしました。部位ごとに細かく分類されており、見分けるのは大変でした。

セッションを通して、色々な分野の方から意見を聞くことや、質問することの大切さを実感しました。私は、今までわからないことがあってもすぐに質問せずに、まず自分で調べてから質問するようにしていましたが、セッションを行う上では、その時にどれくらい相手の話を理解できているのかがとても重要です。あの時は、これが分かりませんでした…ではなく、その場でわからないことは聞くべきだということに気づきました。

今回のインターンシップ先は、ショウジョウバエを専門として取り扱っている施設で、全く知らない分野であり、生き物を使っているということで少し抵抗もありました。しかし、調べていくうちに重要性も理解でき、もっと知りたいと思うようになりました。インターンシップでは、興味がない分野でもとりあえず試して、調べてみることをお勧めします！

修了生へ贈る言葉

コース主任

機械システム工学コース

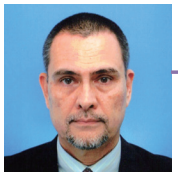
武村（たけむら） 史朗（ふみあき）

機械システム工学コース　コース主任　武村史朗です。専攻科の２年間はどうでしたか？皆さんの在学期間はCOVID-19の影響をもろに受けましたね。これまでの生活をできない状況は不自由なこともありました。大人の一人として申し訳ない思いがあります。皆さんの思い描いた専攻科生活とは、少し違ったかと思います。振返ってみて、後悔していることはありますか？後悔していることがあれば、次はどう活かすか考えて下さい。無駄なことはありません。社会人になるとこれまでの生活習慣が変わってきます。食事や睡眠時間の確保など、若いと、とかく気にしないのですが（僕もそうでした）、生活習慣には十分気を付けて下さい。将来への不安など、いろいろと悩むこともあるかと思いますが、話せる人を作りましょう。話を聞いてもらい、一息ついたら、やるべきことをしましょう（することあるなら、悩む時間は勿体ない。先にすることをしよう、です）。考えることも大事ですが、何より「すること」が大事なときが多いです。今後の活躍を祈念しています。

電子通信システム工学コース

谷藤（たにふじ） 正一（しょういち）

専攻科修了生の皆さん、おめでとうございます。高専生活の７年間、皆さんにとって長かったですか？それとも、あっと言う間でしたか？専攻科の２年間は、コロナ禍の影響を嫌と言うほど受けて、特に実験・実習を伴う特別研究は、それは思うように進まず、苛立ちや戸惑いもあったのではないかと思います。それでも、対面と遠隔のそれぞれの授業形態を体験したことで、双方を客観的に比較することができ、メリットばかりでなく課題も明確に感じられたのではないでしょうか。では、その課題を解決するためにはどうしたら良いのか？そんな考え方が、高専での学びの中で身に付いているものと思います。進学する学生はもちろんですが、就職したにしても学びは、まだまだ始まったばかりです！継続的な自己研鑽が自らを成長させ、スキルの幅を広げることにも繋がります。学び続ける努力を忘れずに、常に自分自身をアップデートしてください。高専の生活で培った能力を信じ、前に向かって進んで行きましょう！皆さんの更なる飛躍に期待します。　・・・ー・



情報工学コース

伊波（いは） 靖（やすし）

情報工学コース　コース主任の伊波です。専攻科修了おめでとうございます。この２年間は「With コロナ」でとても大変だったと思いますが、無事にすべての課程を修了できたことを心からお祝いしたいと思います。４月からの新しいステージでは、職場での人間関係やなかなか仕事が覚えられないストレス、進学先での研究を進めていく不安など、思い悩み、憂鬱になることも多いと思います。そんな時はD・H・ローレンスの言葉「将来のことを考えていると憂鬱になったので、そんなことはやめてマーマレードを作ることにした。オレンジを刻んだり、床を磨いたりするうちに、気分が明るくなっていくのには全くびっくりする。」を思い出してください。憂鬱な時ほど、自分の好きなことや日常のさりげないことに集中することで気持ちが明るくなっていくはずです。将来を思い悩むよりは、「今」を大切にして楽しめるようになってください。では、いつか修了生の活躍を目にする日が来ることを信じてお祝いの言葉としたいと思います。

生物資源工学コース

玉城（たまき） 康智（やすとも）

生物資源工学コースの皆様、専攻科修了おめでとうございます。学科教員を代表し皆様の門出を心からご祝福いたします。皆様は専攻科で過ごした２年間、新型コロナの影響を大きく受けた学生であり、入学式から修了式までの全てのイベント、就職・進学活動、特別研究など常に行動制限が伴いました。私自身、これまで経験したことのない出来事が現在も続いている状況です。特に特別研究に関しては、最終学年の大切な時期に自宅待機となり、研究対象となる植物や細胞、微生物等の観察が継続できないなど、生物を対象とした研究に不利であったことは間違いありません。このような状況の中、皆様が「高い自主性」を発揮し、目の前の課題に一生懸命取り組んだ結果、専攻科を修了し「学士」を取得することになりました。皆様にとって専攻科の修了は、ひとつの通過点であり、新型コロナも皆様の人生ではひとつの出来事になると思います。しかし、このような環境の中で「何を学んだか」でその人の人生が変わると私は信じています。これからの皆様のご活躍を楽しみにしています。

修了にあたって

専攻科２年

機械システム工学コース

根本（ねもと） 凌汰（りょうた）

私が入学してからもう７年という月日が流れてしまいました。課題以外のことも含め、本当に色々あった７年だったと思います。始めに高専を志望した理由は、「プラモデルを組み立てるのが好きだからロボットも作ってみたい」という、ふわっとした気持ちで機械科を選びました。もちろん部活はロボコンを選び、先輩や同級生、そして後輩たちとロボットを作成することができ、当初の予定を見事達成することができました。私たちの代で大きな結果を残すことはできませんでしたし、時期がテストと被ることもありましたが、得られた経験や知識、そして友達は何物にも代えがたい財産であると思います。

専攻科に入学した年に、私らは大きな大きな問題に直面することになりました。この問題のせいで始めは何もできませんでした。対策として遠隔授業が採用されて内心喜んでいましたが、この機会を通して私は人の目がないと怠ける性格であることが発覚しました。授業にも身が入らず、テストも散々な結果となってしまいました。もしこれを読んでいる学生さんがいらっしゃったら、自分は遠隔授業でも平気かそうでないかを確認してみてほしいです。もし私と同じく遠隔授業が苦手な方は少し危機感を持たないと成績が下がる一方だと思うので気を付けてほしいです。

本科専攻科含めてたくさんの人にお世話になったし、迷惑もかけてしまったと思います。機械科教員の皆様やその他科目の先生方、並びに事務の皆様、共同研究をさせていただいた皆様、本当にありがとうございました。そして津村先生、私の指導教員ということもあり苦労することも多かったと思います。そんな中私への丁寧なご指導、心から感謝申し上げます。最後に私の両親へ、ここまで育てて頂いたことと、この学校を入学卒業させて頂いたことに感謝の意をこの場で述べさせていただきます。重ねて皆様、ここまで成長させていただいたことを厚く御礼申し上げます。

電子通信システム工学コース

西（にし） 達大（たつひろ）

沖縄高専に入学して７年が経過しようとしています。沖縄高専での学生生活は、楽しくも苦しいことも数多く経験させていただき、あっという間に過ぎていきました。

本科では、授業のレベルの高さに戸惑うこともありましたが、一風変わった友人たちのおかげで楽しく学生生活を送ることができました。専攻科では、同じコースの仲間が４人とかなり少ない人数での２年間でしたがお互いに切磋琢磨しながら学業・研究に取り組めたと思います。特に研究では、研究室の仲間とコンテストに参加し私たちの成果が高専ワイヤレスIoT技術実証コンテストでビジネスクリエイト大賞を頂くことができ、とても良い経験をすることができました。

専攻科修了後、私は就職し社会人生活をスタートさせます。新たな環境での生活は不安もありますが、高専で鍛えた実力と打たれ強さを存分に活かしながら企業で活躍できるよう頑張っていきたいと思います。

最後にはなりましたが、沖縄高専での学生生活は人に恵まれた７年間でした。厳しくも優しくご指導いただいた教職員の皆様、可愛がってくださった先輩方、一緒に研究やアルバイトに取り組んだ後輩たち、いつもサポートしてくれる両親、飯の世話をしてくれた弟、そして、いつもバカ話に付き合ってくれる友人たち、すべての方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

情報工学コース

亀谷（かめや） 長太（ちょうた）

15歳から22歳まで７年過ごした沖縄高専を３月で修了します。長い間通っていましたが、大学受験がなかったからか４、５年生あたりから時間が止まったような感覚になり、入学から７年経っているという実感が何一つありません。今は体感年齢と実年齢をなんとか擦り合わせることで精一杯です。

メディアの同級生で進学した人は５人、その中で専攻科に進学したのは２人だけでした。進学に関する情報がほかの学科に比べて少なく、専攻科入学前はとても不安でいっぱいでした。しかし、実際の専攻科生活は、同級生の存在もあってとても充実していて楽しいものでした。本科に比べると人数は圧倒的に少なくなりましたが、その分余計な揉めごともなく、仲良く平穏に学生生活を過ごしていました。専攻科の同級生の皆さんには本当に感謝しかありません。

本科の５年間は漠然と専門知識を詰め込んでいるだけに感じて、勉学に対する意欲を無くした時期もありました。そのせいか、工学に関する技術にもあまり興味が持てずにいました。しかし、これまで学んだ知識が工学だけでなく、社会科学や生命科学など様々な分野に繋がっていくことを知ってから、勉強や研究がとても面白く感じるようになりました。専攻科の２年間は専門性を深めるだけでなく、自分の見識を広くするために必要な時間だったと感じています。

専攻科に行かなければ、研究の面白さを知ることも、大学院へ進学することもなかったと思います。専攻科で過ごした時間は自分の人生にとって大きな価値を持っています。教職員の皆さんや友人の皆さん、本当にありがとうございました。

生物資源工学コース

川満（かわみつ） 日向子（ひなこ）

ワクワクと不安とを抱えて、指導寮生の先輩に付いて歩いた入学式の日を、今でもよく覚えています。卒業を目前にした今振り返ると、沖縄高専で過ごした7年間は、発見と変化を積み重ねるような毎日でした。個性的で愉快な先生方、友人に囲まれて過ごす日々の中で、これまでに何回、価値観がひっくり返されてきたか数えきれません。その度に新しい感情や考え方を発見し、その一つ一つが宝物になったと同時に、私の人生を大きく変える分岐点となりました。

後輩の皆さん。特に低学年のみなさんは、入学当初からコロナの真っ只中に置かれ、高専での日々に希望を抱けなくなっているかもしれません。ただ、7年間この学校で学んできた私が言えることは、沖縄高専は学生が主体になって動き、変化することができる学校だということです。コロナ禍で私たちが先輩から受け継いできた文化をそのまま皆さんに引き継ぐことが難しくなりましたが、これは新章沖縄高専を始める大きなチャンスだと思います。挑戦上等、変化上等だと後押ししてくれる素敵な先生方がたくさんいます。その力も借りて、ぜひ悔いの残らない素晴らしい日々を送ってください。最後になりましたが、これまで励まし合い、たくさん笑い合った12期のみんな、いつも背中を押してくださった先生方、支えてくれた家族に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

高専祭を終えて

▲エンディングセレモニーを終えて
（2021 高専祭実行委員会メンバーによる記念撮影）

▲2021 高専祭オープニングセレモニー

今年度、高専祭実行委員長を務めさせていただきました、メディア情報工学科４年の坂本愛里です。今年度の高専祭は12月４日に開催されました。今回で16回目となる高専祭ではコロナウイルス感染拡大防止の観点から無観客開催とし、検温、アルコール消毒、常時換気、三密防止・ソーシャルディスタンスを徹底した中で最大の“楽しさ”を詰め込み、大成功を収めました。

コロナ禍での開催に際して、クラス企画は全て映像作品に移行、屋台ではなくキッチンカーを誘致し、ダンスやバンドなどのLIVEは事前撮影した映像をパブリックビューイングで視聴、そして最後を締めくくる後夜祭はエンディングセレモニーに変更し終焉としました。例年通りとは違った大変さや苦労はありましたが、例年通りとは違うからこその楽しさや経験を味わうことができました。

また、第16回沖縄高専祭公式HP、Twitter、Instagramを開設し、無観客開催での広報活動にも力を入れていきました。中でも、高専祭公式Instagramではインスタライブを使用し、保護者の皆様や、高専卒OB・OG、受験を考えている中学生等の方々に当日の高専祭の様子をリアルタイムでお届けいたしました。

私たち、実行委員は今年度の高専祭開催にあたり、たくさんの壁や、“できない”という言葉の辛さ、コロナウイルス感染状況によって変動する運営の先の見えなさから、何度も逃げ出したくなる時もありました。しかし、私たちの求める“最高に楽しい最上の高専祭”は私たちにしか作り出せません。いつしか、試行錯誤を繰り返す日々がかけがえのない青春の一時となっていました。コロナ禍で企画･運営が右往左往する中で、学生の皆さんや無観客開催にも関わらず協賛頂いたスポンサーの皆様、学生主事、高専祭担当教員をはじめとする先生方、事務の皆様のご協力により、無事、“最高に楽しい最上の高専祭”を実行することができました。この場をお借りし感謝申し上げます。

最後に、大変さを乗り越え、悔しさを踏み台にし、粘り強さを武器にし、何度も一緒に戦ってくれた実行委員長補佐、副実行委員長、各局長、局員の皆さんには伝えきれないほどの感謝でいっぱいです。私を最後まで実行委員長にさせてくれて、本当にありがとう。

来年度は、自慢の後輩たちが今年度を超えた“最高に楽しい最上の高専祭”を開催してくれます！私もとても楽しみです。“例年通り”に縛られるのではなく、年度毎に新しく“楽しい”の形が生まれ続ける高専祭を是非、お楽しみください！

ロボコンの結果報告

ロボット製作委員会
Ａチーム リーダー
機械システム工学科３年
なかむら ひでなり
中村 英誠

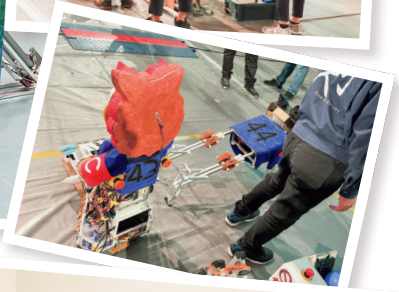
ロボット製作委員会Aチームリーダーの中村英誠です。

私達ロボット製作委員会はNHK主催の高専ロボコンに出場するロボットを製作しています。所属する学生でより良いロボットを製作するために、たくさんのアイディアを出し合っています。高専ロボコン2021のテーマは「超絶機構」(読み方:すごロボ）とにかくすごいロボットを製作する事でした。沖縄高専からはAチームが地区大会出場しました。Aチームはリフティングをするロボット、オーバーヘッドロボット、パスロボットの３台を製作しました。その結果特別賞（本田技研賞）を頂き、推薦枠で７年ぶりの全国大会出場を決めました。全国大会ではオーバーヘッドシュートを決められず悔しい思いをしましたが、リフティングの技術が評価され特別賞（安川電機賞）を頂きました。

２年連続の全国大会出場を目指して頑張っていきたいと思います。

ロボット製作やモノづくりに興味がある方一緒にロボコン大賞を目指しましょう！

沖縄高専ロボット製作委員会で待っています。



学生の活躍［スポーツ］

和多野　大［総合科学科］
（高専大会水泳競技・九州沖縄地区代表）

令和３年 11 月、第 58 回（令和３年度）九州沖縄地区高等専門学校体育大会水泳競技の代替大会において、情報通信システム工学科５年の宮里佳明さんが、男子 200m バタフライで第１位となり、12 月に秋田県秋田市で開催された、第 27 回全国高等専門学校体育大会水泳競技への出場権を獲得いたしました。

昨年度は新型コロナウィルスの影響で、大会中止の憂き目に遭いました。今年度もほぼ同様の環境に置かれ、限られた練習環境でトレーニングと調整を続けてきました。

今年度は、全国高専体育大会が開催されるにもかかわらず、九州沖縄地区では早々に地区大会の中止が決定し、水泳を含めた九州沖縄の高専の各競技は、かつてない苦境に立たされました。地区大会が開催されない中で全国高専大会への出場選手を決定せねばならなくなり、従来の高専体育大会とは別の、独自の代替大会が、水泳を含む各競技で開催される運びとなりました。

水泳競技では通信大会制が採用され、過去の一定期間内における公式記録や、各高専内で行われた非公式の記録会の記録を持ち寄り、選手個人間で競うかたちで行われました。

九州各高専から各選手のシーズンベストの記録が続々と申請される中、沖縄高専では２名の選手がエントリーし、宮里佳明さんは男子 200m バタフライで第１位を獲得しました。また機械システム工学科２年の関屋優太さんが 50m 自由形で 16 位となり、来年度以降の大会へ希望をつなげました。

沖縄高専水泳部としては、2011 年以来 10 大会連続での、全国高専大会への出場権獲得となりました。今年度の全国高専大会は異例の 12 月開催となり、沖縄高専は練習環境が整わず、残念ながら出場は見送りましたが、宮里さんは中心選手として５年間水泳部を牽引し続けて、このたびの高専卒業となりました。これから待ち受ける社会での今後のさらなる活躍を、心から祈ります。

学生の活躍
[コンテスト]

“バイオインフォマティクス”楽しいですよ!

新型コロナウイルスの流行に歯止めがかかりません。その様な中で、毎日の感染者数を都道府県別に、世界での変動をグラフに、など大規模なデータを扱うデータサイエンスに注目が集まっています。私が研究する生命科学の分野でもヒトの設計図である“ゲノム”を解析したり、ヒトのお腹の中の細菌叢を解析したりと莫大なデータを扱う機会が増えてきました。これまでの方法ではデータの出て来る数に処理が追いついていかなくなっていました。ここで生命科学と情報科学が協力し合うデータサイエンスの新しい学問が生まれました。“バイオインフォマティクス”です。今、世の中では、生命科学と情報科学の知識をバランス良く身に付けた技術者・研究者が必要とされ、企業や研究所などでの需要が高まっています。沖縄高専では、2010年から「バイオインフォマティクス人材育成」に沖縄県と連携して取り組んできました。その中で、日本バイオインフォマティクス学会が主催する「バイオインフォマティクス技術者認定試験」の試験会場にも指定されています。この試験は、生命科学系大学院の博士課程を基準に設定されていますが、今年度も本校の２年生が合格し「学会奨励賞」を受賞しました。これで、2019年度から３年連続での学会奨励賞受賞となります。次はあなたです！是非、一緒に沖縄高専でバイオインフォマティクスを学びましょう。

専攻科及び九州大学の連携教育プログラムの紹介

専攻科長　高良（たから） 秀彦（ひでひこ）

令和５年度より、専攻科と九州大学が連携する「九大工学部･九州沖縄９高専連携教育プログラム」が始まります。

「連携教育プログラム」とは、文部科学省が進めている教育システムの一つで、高等専門学校の専攻科と大学が連携して教育を行うプログラムです。近年、いくつかの高専・大学間でこのようなプログラムが実施されています。

このプログラムでは高等専門学校と大学が連携・協力して多様化する課題に適切に対応する人材を育成します。

「九大工学部・九州沖縄９高専連携教育プログラム」は、九州沖縄地区９つの高等専門学校の各専攻科と九州大学工学部「融合基礎工学科」にて修学する履修プログラムコースです。本プログラム修学では、履修者は高専専攻科と九州大学の双方に在籍することになります。

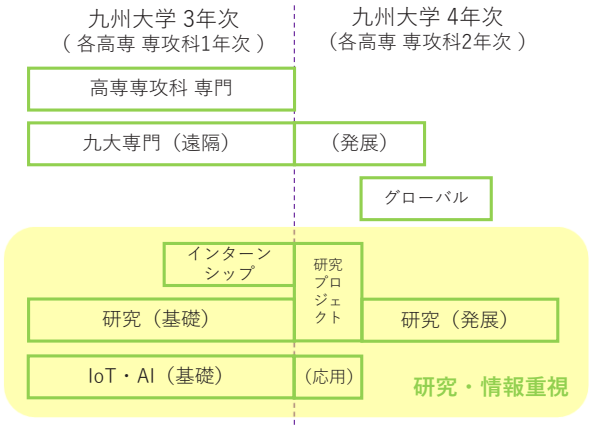
コースの特徴は従来のメジャーとなる専門教育に加え、関連性の高いIoT･AIの情報応用教育を修得します。またグローバル社会への情報発信力と実践的応用力を培うため、国際研究発表や産学連携研究プロジェクトへの参加の機会を設けます。この国際研究力と実践力を高めるため、専攻科１年次（大学３年次）から高等専門学校および九州大学の研究者間で連携する研究室への配属が予定され、双方の指導の下において研究力を強化していきます。

プログラム所定の課程を修了した者は、高専専攻科から修了証書ならびに九州大学からの卒業証書（学士の学位記）が交付されます。さらに希望者へは大学院総合理工学府への優先的入学の機会が与えられる予定です。

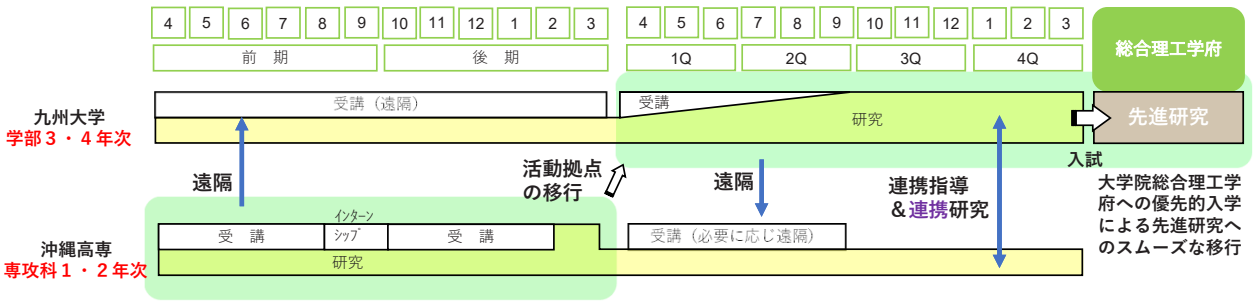
本プログラムの詳細については下記ホームページをご覧ください。

九大工学部・九州沖縄９高専連携教育プログラム ホームページ　https://renkei.kyu-kosen-ac.jp

■ 履修科目概要



■ 履修生の修学･研究等に関する活動概要



専攻科の活躍

専攻科長　高良（たから） 秀彦（ひでひこ）

専攻科の後期では、講義および特別研究などを通じて、専門分野（機械システム工学コース、電子通信システム工学コース、情報工学コース、生物資源工学コース）および異なる分野において、より深い知識、実践性および創造性を修得しました。また、企業や大学における長期インターンシップに参加して、将来の進路への目標を明確にした学生もいました。

特別研究においては、立案した研究計画を自主的に遂行して、学んだ知識を総合して問題解決を行い、1月に特別研究発表会を行いました。また、特別研究で得られた成果を学会等の学外へ向けて多数発表しています。その一つとして、12月に琉球大学工学部との研究交流発表会が開催されました。この研究発表交流会は毎年、沖縄高専と琉球大学が共同で開催しています。今年度は感染防止対策のためオンラインでの開催でしたが、例年と同様に沖縄高専専攻科から多数の発表がありました。この研究交流会や学会等で専攻科生が他機関の方々と意見を交流することにより、特別研究の内容を高めるとともに、技術者・研究者としてのスキルも向上することができたと思います。

専攻科2年生が2年間に発表した対外発表の総数は50件以上でした。これは平均すると一人当たり2件以上も発表したことになります。また、令和3年度 溶接学会九州支部 優秀学生講演賞を受賞するなど多くの発表が高い評価を得ています。このように、コロナ過で遠隔授業などの制限がある中でも活発に研究活動が行われました。

今年度、専攻科から2年生21名全員が修了して新たな世界へ飛び立ちます。専攻科で努力して修得してきたことが今後の進路で大きな実を結ぶと期待しています。自分を信じて、一歩ずつ前に進んでください。

2021年度就職進学活動を終えて

本科５年生

機械システム工学科

高橋（たかはし） 海舟（かいしゅう）

今年度、企業に内定も決まり、安心して卒業を迎えられることになりました。

私たちの学生生活を支えてくださった教職員の皆様、保護者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

４年生は実感していると思いますが、高専生活は思いのほかあっという間に過ぎ、進路について考える機会はすぐにやってきます。私が就職活動を通してこれは大事だなと感じたことを書き留めていきますので、就職を検討している皆さんは参考にしてみてください。

はじめに3月1日の解禁日前に自分のつきたい業種を絞る、就活の流れをある程度決める（いつまでに受ける企業を決めて、いつまでにエントリーシートを完成させるなど。）などしておくといいかもしれません。

次に、就活を自分一人でやろうとしないことです。先生やキャリアアドバイザーの方に就活だけでなく、進路などで不安があることを相談、エントリーシートや履歴書、面接練習などを手伝ってもらうといいと思います。自分一人で進めようとすると気づかないことや、間違いがあることが多々あると思います。先生やキャリアアドバイザーの方にチェックしていただくことでより確実な準備ができるはずです。

最後に、初歩的なことですが会社説明会、面接では清潔感のある身なり、愛嬌（笑顔）のある話し方などを意識すると良いです。また、面接時のマナーなどですが面接中に度忘れしてしまっても、失礼のないように行動するということを頭に入れておけば、面接官の方々に悪い印象は与えないのではと思います。

私は後悔のない就活をし、終えることができました。皆さんも悔いのないように進路活動に取り組んでいってください。

情報通信システム工学科

久高（くだか） 萌永（もえ）

私は、推薦での編入試験を受け大学への編入が決まりました。

最初は、進学先とは別の大学の一般試験を受けることを考えており、４年生の夏休み頃から勉強をしていました。しかし、５年生に進級してから進学先の大学の奨学金制度が充実していることを知り、進学先の推薦入試を受けることにしました。ギリギリのタイミングで推薦入試に切り替えられたのも、一年生の頃から真面目に学業に取り組み、創造研究で様々なコンテストに挑戦し、結果を残してきたからだと思っています。新入生や低学年の皆さんは、早めのうちに進学・就職を意識し、日ごろから真面目に課題などに取り組み、コンテストなどに挑戦してみるといいと思います。

また、進学や就職活動に関しては先生方のサポートが欠かせません。私が推薦入試で合格したのも、先生方に書類を添削してもらい、たくさんのアドバイスをいただいたおかげだと思います。そのため、これから進学・就職に立ち向かうみなさんは、先生方に相談に乗ってもらったり、書類の添削や面接の練習に付き合っていただくようお願いしてみるといいと思います。

進学・就職活動はすごく大変だと思います。はやめに進路が決まった人をみるとすごく焦るし悩むこともあります。そんな時ほど一人で抱え込まず、周りに助けを求めて、たまに息抜きをすることも大切です。頑張ってください！

メディア情報工学科

金城（きんじょう） 咲良（さくら）

私がこれから就職活動を始める皆さんに伝えたいことは2つあります。

１つ目は、早めに行動することです。４年生後半になると、先生方からほぼ毎日進路について考えるように言われると思います。まだ大丈夫だろう、まだ自分とは無関係な話だと思っていませんか?私もそのように思っていたので、実際に就活は3月の情報解禁日から始めました。ですが、実際に始めてみると、説明会から１週間後にESの提出があったり、適性検査があったりと、この時点で開始しても遅いことが分かりました。なので、自分の長所・短所を探したり、学生時代に力を入れたことを考えたりするなど、できるところから早めに始めることが大切だと感じました。

２つ目は、相談することです。就活をするにあたって、どこの企業を受けるか、ESや履歴書に何を書いたらいいか分からない、など色々な不安や悩みが出てくると思います。その時は、先生や友達、家族に相談することを強くお勧めします。きっと親身になって相談に乗ってくれると思いますし、不安も解消されると思います。

５年生は卒業研究や進路活動など色々なことが重なり忙しい１年になると思いますが、悔いのないような選択ができることを祈っております。

私も、４月から社会人として頑張ります！

生物資源工学科

嘉数（かかず） 万里奈（まりな）

私は学力試験で大学への３年次編入が決まりました。進路は４年の後期から考えはじめました。学期末までなかなか志望校が決まりませんでしたが、先生やキャリア教育センターの方と相談して５年の４月に決めました。さまざまな人に相談すると多くの意見をもらえ、進路を決める手がかりが見つかるかもしれないので、迷った時は相談してみるといいと思います。

勉強はネットにある合格体験記や先輩方が書いてくださった進路活動報告書を参考にして進めていきました。志望校を決めるのが遅かったため勉強を始めるのが遅く、きつかったので早めに決めて動くのが大切だと思います。

私は第一志望校の試験日が遅く、先に進路が決まった友人をみて羨ましく思う時もありました。しかし、周りからの応援や支えがあって最後までやり遂げることができました。

合格も嬉しかったですが、受験勉強を通して自分がまた一つ成長できたのも嬉しかったです。

なかなか勉強計画が思い通りにいかなかったり、勉強が苦しくなる時があったりするかもしれませんが、自分に負けず頑張ってください！

機械システム工学コース

稲嶺 奏人（いなみね かなと）

私が高専に入学して7年もの月日が経ち、もうすぐ修了を迎えます。この7年間はとても濃く、たくさんのことを学べたと感じています。課題やレポートに追われながらも友人たちと過ごした日々は忘れ難いものになったと思います。

しかしながら本科5年間を終えると、就職・進学と大きな分かれ目に出会うことになります。周りの友人は県外就職や編入などを選択する中、私は学士が欲しかったのもありますが、就職活動の際に情報収集を怠ってしまい、自分が社会人として働いている姿をイメージすることができず、専攻科進学を選びました。今この選択に後悔はありませんが、どこかで県外就職した友人たちを羨ましく思っていたこともあり、専攻科2年生での就職活動は、県外企業に絞って行いました。5年生の時の失敗から学び、業界研究会や説明会にも積極的に参加し、情報収集を行い、初っ端から「ここ！」ではなく、自分がどういう条件・業界で働きたいのかおおまかに絞ってから行きたい企業を選びました。履歴書作成や面接では、これといって特筆することがない私は、いかに良い印象を与えられるか、いかにこの会社で働きたいか、が人事の方に伝わるように意識して対策を行いました。

このことから在学生の皆さんに言えることは、やらなければならないことは後回しにせず早めに済ませること、また就活でアピールポイントがないと思っても自信をもって相手に気持ちが伝わるような言動を心がけることが大事、ということです。

高専に入学した時点で、狭き門を通ってきた優秀な皆さんです。心配はしてもしすぎずに、一日一日大切に過ごして頂ければと思います。最後にこの7年間で出会った先生方、友人、先輩後輩の皆さん、お世話になりました。本当にありがとうございました。

電子通信システム工学コース

奥浜 駿（おくはま しゅん）

私は沖縄高専に入学して約7年が経ちました。入学して当初は授業のレポートと定期試験で時間に追われ、学年が上がるにつれて専門科目の授業も増え、3年生の修学旅行、4年生のインターンシップ、5年生の卒業研究と気が付くと本科での学生生活が過ぎていきました。それからは本科を卒業後、専攻科に入学し、2年間の特別研究を行ってきました。

これまでの高専生活から後輩の皆さんへ伝えることは、まず、レポート等の提出をできるだけ早く行うべきだと考えます。私が本科で在籍していた情報通信システム工学科では1週間で複数の科目のレポートが課せられることがあります。そのため、一つ一つレポートを終わらせて、学生生活にゆとりを持つことが大事だと考えます。

次に、4年生のインターンシップは今後の進路に大きくかかわる就職・進学活動なので、自分の将来を考慮して、しっかり行動するべきだと思います。

あと、私は7年間の学生生活を通して、多くの教職員の方に、指導を受けました。教職員の方々への日頃の感謝を忘れずに学校生活を送ってほしいです。

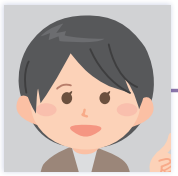
最後となりましたが、これまでの7年間の学生生活本当にありがとうございました。

情報工学コース

新垣 美紀（あらかき みき）

気づいたら7年間も在籍していました。15 歳の頃、高専を志望した理由は「学費が安い」「寮がある」「就職率が良い」この3点からでした。実際、奨学金を借用しながらある程度の成績を維持していれば授業料は全額免除になりました（今は制度が変更されているかもしれません）。

私は本科時代、「高専でしかできない経験を積む」といった目標を立て、高専プロコンと高専カンファレンス、高専生限定インターンに参加するといった高専漬けの学生生活を送りました。そこで出会った他高専の人たちは技術に関することが大好きで、制作した Web サイトにレビューしてもらったり、イベントに誘ってもらったりとたくさんの良い刺激をもらいました。彼らとは今でも交流があり、時には一緒に旅行に出かけるなど良い関係を続けています。専攻科では、進学する人が少なかった分、本科時代に話す機会がなかった人たちと仲良くなり学業以外も充実していました。高専で出会った先生方、先輩、後輩、友人たちには本当にたくさん助けてもらい、ネタの尽きない学生生活を送らせて頂きました。ありがとうございました。



生物資源工学コース

新垣 さくら（あらかき）

私が専攻科に進学した理由は、沖縄県の専門職公務員になりたかったからです。そのためには、学位が必要だったため、専攻科へ進学しました。しかし、専攻科 1 年生のときに本科で卒業した同級生たちが県外で楽しそうな社会人生活を送っているところを見て、私も県外で就職したいという思いが強くなりました。

就職活動を始めるにあたってまずは就職したい分野を決めました。私は生活を支えている日用品の会社に着目し、学校で行われる業界研究会に参加してたくさん情報収集しました。その時に、さらに根本から生活を支えている素材をつくる会社に惹かれ、化学系の会社に就職したいと思うようになりました。その化学系の会社に就職した同級生に、「この会社でよかったこと」「ちょっと嫌だと思うこと」を質問しました。会社説明会では質問しづらい話も、同級には聞くことができ、専攻科の特権だと思いました。先生方にはお忙しい中面接練習に付き合っていただき、感謝でいっぱいです。ありがとうございました。

専攻科の同級生の中には、明確化された夢を持ち、就職活動以外の選択肢を選んだ人がいました。その姿を見て、やりたいことがあることが羨ましく、かっこいいと思いました。私も、これから社会人になり目の前の一つひとつのことに一生懸命取り組み、やりたいことや夢を見つけていきたいです。

■就職・進学・志願状況

【令和４年３月卒業予定者の進路状況】

令和４年２月 10 日現在

	区分	学科				合計
		機械システム工学科	情報通信システム工学科	メディア情報工学科	生物資源工学科	
	卒業予定者数※２	41	46	56	38	181
合格状況	進学希望者数	15	17	17	22	71
	進学希望者率	36.6%	37.0%	30.4%	57.9%	39.2%
	進学予定先※１	沖縄工業高等専門学校専攻科 (8) 千葉大学 東京農工大学 琉球大学 金沢大学 千葉工業大学	沖縄工業高等専門学校専攻科 (10) 九州大学 東京農工大学 豊橋技術科学大学 琉球大学 沖縄国際大学 モンゴル科学技術大学	沖縄工業高等専門学校専攻科 (5) 会津大学 千葉大学 筑波大学 電気通信大学 島根大学 琉球大学 (3) 東京工芸大学 東京国際工科専門職大学 文化服装学院	沖縄工業高等専門学校専攻科 (6) 佐賀大学 島根大学 長岡技術科学大学 (2) 徳島大学 信州大学 琉球大学 (2) 香川大学 (2) 帯広畜産大学 東京農工大学 日本大学 KBC 学園 沖縄ペットワールド専門学校 学校法人 SOLA 学園 沖縄医療工学院 沖縄ホテル観光専門学校	
内定状況	就職希望者数	26	28	35	16	89
	就職希望者率	63.4%	60.9%	62.5%	42.1%	49.2%
	内定先企業名※１ （県内） 県内に本社のある企業	株式会社 FM やんばる 金秀アルミ工業株式会社 拓南製鉄株式会社 (2)	JTA インフォコム株式会社	株式会社ビーンズラボ (2) 株式会社サムズインターナショナル Ｔ＆Ｃテクノロジーズ株式会社		
	内定先企業名※１ （県外） 県外に本社がある企業	出光興産株式会社 (3) 株式会社アルプス技研 株式会社技研製作所 株式会社ダイハツビジネスサポートセンター 株式会社マイタック キヤノンメディカルシステムズ株式会社 東京ガスパイプネットワーク株式会社 日本ペイント株式会社 三菱ケミカル株式会社 メタウォーター株式会社 株式会社福井村田製作所 株式会社メイテックフィルダーズ 株式会社カンセツ ダイダン株式会社	I-PEX 株式会社 NTT データソフィア株式会社 NTT 東日本グループ (2) 出光興産株式会社 エスアイエス・テクノサービス株式会社 (3) 株式会社 FIXER 株式会社アルプス技研 株式会社オーエスデザイン 株式会社オリエンタルインフォーメイションサービス 株式会社科学情報システムズ 株式会社日立ハイシステム 21 株式会社ネオジャパン キヤノンマーケティングジャパン株式会社 国際ケーブル・シップ株式会社 ソフトバンク株式会社 東芝プラントシステム株式会社 独立行政法人国立印刷局 パナソニックシステムソリューションズジャパン株式会社 富士電機株式会社 株式会社テクノプロ 株式会社ディライトテクノロジー 三興コントロール株式会社	大阪シーリング印刷株式会社 株式会社 FIXER (3) 株式会社 NS・コンピュータサービス 株式会社クリエイティブキャスト 株式会社コンピュータマインド 株式会社セルシス 株式会社ソフトウエア・サイエンス (2) 株式会社タップ 株式会社ディー・エヌ・エー 株式会社ドリコム 株式会社ハイマックス 株式会社ビジュアル・プロセッシング・ジャパン 株式会社日立情報通信エンジニアリング (2) 株式会社日立ハイシステム 21 (3) 株式会社メンバーズ (2) 凸版印刷株式会社 クラウドエース株式会社 (2) エヌシーティ株式会社 株式会社アイダ設計 株式会社アルプス技研 (2) 株式会社 J ストリーム 間口ジェネラルサービス株式会社	出光興産株式会社 大阪シーリング印刷株式会社 株式会社オヤマ サントリーグループ 日本たばこ産業株式会社 ユニチカ株式会社 呉羽テック株式会社 三友プラントサービス株式会社 株式会社オーエスデザイン 株式会社アルプス技研 安達農園	

※１　同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を（　）内に示しています。
※２　卒業予定者数には留学生を含む。

【令和４年３月修了予定者の進路状況】

令和４年２月 10 日現在

	区分	コース				合計
		機械システム工学コース	電子通信システム工学コース	情報工学コース	生物資源工学コース	
	修了予定者数	4	5	3	9	21
合格状況	進学希望者数	0	2	1	2	5
	進学希望者率	―	40.0%	33.3%	22.2%	23.8%
	進学予定先※		電気通信大学大学院 和歌山大学大学院	電気通信大学大学院		
内定状況	就職希望者数	4	2	2	6	14
	就職希望者率	100.0%	40.0%	66.7%	66.7%	66.7%
	内定先企業名 （県内） 県内に本社のある企業		沖縄セルラー電話株式会社		沖縄ハム総合食品株式会社	
	内定先企業名 （県外） 県外に本社がある企業	旭化成株式会社 キヤノンメディカルシステムズ株式会社 株式会社タマディック 日本精工株式会社	KDDI 株式会社	株式会社メンバーズ チームラボ株式会社	DIC 株式会社（2） 出光興産株式会社 沢井製薬株式会社	

※１　同一企業に複数名の学生が内定した場合、または同一の進学先に複数名の学生が合格した場合、その人数を（　）内に示しています。

沖縄工業高等専門学校20周年記念事業

ロゴマーク＆キャッチフレーズ募集

沖縄高専 2022年 開催イベント

学校・入試・説明会

4/9 北部地区	5/21 オンライン
4/17 オンライン	6/25 オンライン
4/23 中部地区	9/10 オンライン
5/7 那覇・南部地区	9/17 入試説明会

お問合せ先

沖縄工業高等専門学校　総務課総務係
TEL：0980-55-4003　Mail：ssoumu@okinawa-ct.ac.jp